

MIS^t 手技における経皮的椎弓根スクリュー法—基礎と臨床応用

日本 MIS^t 研究会 ● 監修

星野雅洋・佐藤公治・齋藤貴徳・有蘭 剛・石井 賢 ● 編集

〔評者〕 徳橋泰明 (日本大学医学部整形外科学系整形外科学分野主任教授)

すばらしい経皮的椎弓根スクリュー法の「手術書+教科書」が刊行されたので、ぜひ紹介したいと思います。

本書は、星野雅洋先生をはじめ、日本 MIS^t 研究会の 5 人の発起人が編集を担当し、各術式や項目についてはエキスパートの先生方が執筆しています。常々、手術書には 3 つの条件が必要と考えています。一つは正確であること(解剖は正確でなくてはならない)、一つは実践的であること(経験に基づいた術者の視点で描かれていること)、最後は美しいこと(手術も手術書も fine でなくてはならない)です。本書がこの 3 条件をクリアしていることは当然ですが、特に基本手技、この手技が有用な病態や疾患別の適応、安全性への取り組み(合併症とその予防への取り組み)にもかなりのページを割いていただき、初心者やこの手技に慣れていない人にとって大いに役立つものになっています。いわば経皮的椎弓根スクリュー法の「手術書+教科書」が本書の特徴です。心して立ち向かわなければならない比較的難度が

高く、ハイリスクの手術でも、本法の導入により、より低侵襲な手術として対処できることもわかります。

かつて先輩格の通常の椎弓根スクリューが導入されたときに最も困ったのは、よい教科書、手術書がなかったことです。今思えば、メーカー主導のハンズオンセッションや講習会により知識を導入しながら、そして各種病態への適応を模索しながら手術を行ってきました。椎弓根スクリューは、現在では脊椎インストゥルメンテーションの主役になりましたが、そのメーカー主導の導入形態と予想以上の合併症により、少なくない批判を浴びたことは誠に残念でした。本書でも紙面では強調されていませんが、インプラントメーカー各社にかなりの協力をしていただいたことがわかります。経皮的椎弓根スクリュー法に関しては、編集ならびにエキスパートの先生方の尽力、そしてインプラントメーカー各社の協力により、書籍という形で手術を学べることは、術者にとっても、手術を受ける患者にとっても幸せなこととつ



くづく思います。本書のようなすばらしい「手術書+教科書」により、より fine でより低侵襲な手術をより多くの方ができるようになり、多くの患者を救っていただきたいとつくづく思います。日本 MIS^t 研究会の 5 人の発起人をはじめ、執筆者の皆様、すばらしい「手術書+教科書」をありがとうございます。

B5 284 頁 2015 年

定価：本体 12,000 円+税

[ISBN 978-4-89590-532-9]

三輪書店 刊